

令和5年度要望事項に係る質問文

1 国へお願いしたいことについて I-1, 2

小学校では5年生からだった外国語活動を3年生からに前倒しし、5・6年生は外国語が教科化されました。これに伴い、3～6年生までそれぞれ週1コマずつ授業時間が増えています。また、外国語

以外にも、プログラミング学習はじめ、新たに加わった学習内容や、主体的、対話的で深い学びの実現などが求められています。現場では、それらの具現に向け、精一杯の努力をしておりますが、膨大な求めに対し、限界を感じている状況です。教員からは「働き方改革は困難」との声も聞かれます。国の構想実現に向けては、どうしても前線を守る教員のゆとりが必要です。学習指導要領の再整理や、スクラップ・アンド・ビルド、効率化を図る必要があると考えます。

また、教職員の定数確保については、依然厳しい状況が続いています。新規教職員の大量採用による学校運営の戦力ダウンも大きな課題となっています。このような状況に鑑み、60歳を超えて働く教職員の確保は極めて重要です。しかし一方で、再任用教職員志願者の減少、早期退職者増加の問題が憂慮される状況にあります。背景は多様ですが、中でも大きいのは待遇の不十分さにあると考えられます。労働に見合う適正な待遇が実現されることを強く願います。

これらの問題については、国に対してお願い申し上げるべきことですが、県教委の皆様からの後方支援が必要です。教職員確保並びに、教職員の働き方改革、円滑な学校経営のためにお力添えいただきますようお願いいたします。

2 会計年度任用職員の配置について II-1-(7) II-3-(1)

学校現場における常勤教職員の確保が困難を極める中、各校では、会計年度任用職員の効果的な活用を模索しています。一方、授業系非常勤講師の確保も極めて危うい状況です。このことを受け、以下

3点について要望させていただきます。

まず、不登校児童生徒数増に伴う、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・親と子の相談員・学びいきいきサポーターの配置数・勤務時間数増についてです。担任にとって、児童生徒の不登校と向き合うことは、多大な労力と時間を必要とします。上記会計年度任用職員を配置いただくことで、対応を分担でき、児童生徒の居場所の確保並びに保護者の支援等が可能になります。ぜひ配置拡充についてご配慮いただきますようお願いいたします。

次に、指導補助系非常勤講師「にこにこサポート」の配置拡充です。にこにこサポートの配置により、重要な課題と認識しつつ、担任一人ではなかなか行き届かない、児童生徒の個別最適な学びの保障ができております。多くの学校にこの恩恵がいただきたいと考えます。

そして、スクールサポートスタッフ、昨年度から配置いただいている緊急校務支援員は、それぞれの活用についての研究が進み、学校運営の大きな助けになっています。配置校からは喜びの声が聞かれており、今後の配置拡大・勤務時間数増のご配慮により、一層学校支援に資するものと考えます。

以上よろしく申し上げます。

3 初任者研修内容の精選と、初任者及び学校の負担軽減について II-2-(1)

大量退職に伴う大量採用で、学校規模問わず、毎年、新規採用者が配置されています。特に新卒者の指導は全校体制を整え、綿密に行われる必要があります。しかし、いじめ・不登校問題の対応や特別な支援を要する児童・生徒への対応、保護者対応等、現場の多忙感が払拭できない状況の中、育成のための十分な指導が叶いません。また、定数未配置、年度中途欠員の不補充は、教育課程実施上のブレーキとなり、止む無く新規採用者の校内研修（特に見学研修）を犠牲にして、校内体制を組まざるを得ない場合も少なくありません。さらに、学校によっては、毎年新卒者が入っています。2年目、3年目を迎えても自立の途上にあり、変わらずの支援・指導が必要です。そこには十分に手が回らない状況です。新規採用者の自立支援と円滑な学校運営がともに叶うような、初任研の研修時間数の弾力化、内容精選及びプログラムの再検討を強く要望します。